

平成 26 年度第 1 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 26 年 6 月 13 日（金）午後 5 時～7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、高松委員、田中委員、田峰委員、長澤委員

事務局出席者

松浦（校長）、繁内（教頭）、中尾（事務長）、藤井（首席）、原田（教諭・教務主任）

宮内（教諭・進路指導主事）

I. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 本校の現状報告（校長、宮内、藤井、繁内）

- ・学校経営計画について
- ・5 期生進路結果について
- ・ユネスコスクール活動等について
- ・教科書選定の手続きについて

(3) 保護者からの意見について

(4) 質疑・応答

内容

< 挨拶 >

校長より 入試制度の改変（学区がなくなる、2 年後内申が絶対評価に等）、普通科総合選択制の再編整備計画等。

< 現状報告 1 >

26 年度学校経営計画の重点目標について説明（校長）

1 「学力の向上」

(1) 「わかる授業」をめざした授業改革

- ・授業アンケート及び、学校教育自己診断を今年も実施していく。

(2) 中学校との連携

- ・地元中学との連携が活発化している。今年度も地元 5 中学連絡会等を実施していく。

2、「社会で生きるための諸能力の向上」

(5) 部活動の活性化

- ・部活動加入率を上げていく。今年の 5 月には加入率 60% だった。部活動は人間性を磨き、勉強も頑張れる生徒を育てると考えている。

委員：

○部活動の加入については、どこかのクラブに加入しなければならない学校があるが、ここではどうか。

事務局：

・4月に1年生全員を対象に体験入部を実施し、その間にクラブウィークを設定して、顧問が必ず部活動に顔を出すようにした。その後、本登録した生徒の平均が6割をやや超えた。

委員：

○4期生は部活動よりアルバイトする子が多かったから、6割の参加率は多いなと思う。掛け持ちもいるのだろうか。

事務局：

・特に文化部だと掛け持ちをしている生徒はいる。数はほとんどいないが、運動部と文化部の兼部もいた。

<現状報告2>

5期生の進路結果について（宮内）

ここ3年間の卒業学年との比較

- ・四年制大学への進学率が一番高い（3期生 33.8%、4期生 35.6%、5期生 37.4%）
- ・フリーター減少（3期生 9.5%、4期生 12.4%、5期生 6.6%）
- ・合格状況・・・
理系、摂南大に12名 2ヶタ合格は初めて、近大初めて合格、京産大合格
関学大・関西外大に一般入試で初めて合格、龍谷大のべ3名合格
就職では茨木市役所、大阪府警に各1名採用された。
- ・5期生は入学時のベネッセ進路マップの上位層がある程度いる学年だった。普段の授業もまじめに受けていて、進路に対する高い意識を持った生徒が多かった。学校としても1年生から、進学準備プログラムに基づいて指導してきた。

委員：

○大学進学実績を上げるには経済的な条件も含め、浪人できるか確認して指導すれば、いい大学に入れると思うが。

○実際には浪人は避けたいのが現状。高い目標の大学選びをしないなら浪人はしない。早く進路先を決めたがる。もっと高い目標にチャレンジしてもいいと思うが。また、進路説明会への保護者の参加が少ない傾向があると思う。

事務局：

・進学講習については、各教科が教材を工夫し実施しているが、ご指摘のとおり、浪人を避ける傾向があり、進学先を安易に決める生徒が多い。

<現状報告 3 >

ユネスコスクールの活動等について（藤井）

- ・今春「いじめ防止基本方針」策定。「人に迷惑をかけない」から「人からされてうれしいことを人にする」がいじめ防止につながると考えている。東日本大震災復興支援活動もその一環。生徒にユネスコ ESD パスポートを配付して、社会奉仕活動に活用している。地域住民と生徒の持続可能な関係ができつつある。例えば、今年 3 月に気仙沼高校野球部を本校に招き、野球交流を実施したが、本校生がホームステイ先の住民と気仙沼高校生とのつなぎ役をした。
- ・地域を意識した行動を取れるよう、自転車免許講習を今年も 1 年生対象に実施したところだ。自転車通学マナーとルールを守り、地域住民の迷惑にならない通学を心がけさせたい。
- ・立命館大学が茨木市内の高校全部と高大連携協議会を設立した。ここでの活動でも、里山での実習に本校が参加している。また、立命館大学の留学生が本校の授業に参加した。

委員：

○地域連携協議会に参加している大学は立命館だけか。

事務局：

・そうです。この組織は立命大と春日丘高校、関西大倉高校が呼びかけ人となって設立した。地域貢献が使命の組織です。

委員：

○地域ボランティアについては、茨木市民活動センターともつながりがあればいい。

事務局：

・われわれもそう思い、お世話になっている。

<現状報告 4 >

教科用図書の選定方法について（繁内）

- ・高校での教科書選定方法について説明・・・委員から特に意見なし

意見交換

委員：

○授業改善を行っていくには、設備・環境も備わっていないと変わらない。例えば、

作品制作を指導しようとしても、作品を置いておく場所が必要。

事務局：OA 機器、視聴覚機材とか。

委員：

○OA 機器も大事だが、机一つでもどう置くかが重要。それによって環境が変わる。

委員：

○学習習慣のある子は伸びる。学生の協力を得て、少人数指導をすれば、子どもの成績はどんどん伸びる。

委員：

○繰り返すのが学習の基礎、せめて 30 分集中できるようになればと思う。また、相手の話を聞けるということも大事。

事務局：さきほど、大学の留学生が本校に来た話をしましたが、本校では「アジアの文化」でタイの高校生とビデオレターで交流している。お世話いただいている委員にお伺いする。今のタイは政情不安と報道されているが、実情はどうか。

委員：

○タイを訪れたばかりだが、学校は今休みの時期、平常と変わらない様子だった。いま、タイと日本の生徒で紙芝居を制作できないかと考えている。紙芝居を通じた交流はできないか。

事務局：

・それはできると思う。

委員：

○実は、タイの高校生を 20 人程度日本に招き、ホームステイを含め、日本の高校生と交流させたいのだが、つばさ高校は受け入れできるだろうか。

事務局：

・学校での交流はできるだろうが、ホームステイはハードルが高い。20 名は難しい。

・予定の時間となりました。ご意見を賜りありがとうございました。次回は 2 学期に行います。

<その他>

保護者からの意見・・・なし